

鉛の評価書骨子（案）

要約

自ら評価実施の背景

- I. 物理、化学的特性
- II. 鉛の生産と用途
- III. 日本の現行規制等
- IV. 環境中の分布、動態
 1. 大気中の鉛
 2. 土壌・粉塵中の鉛
 3. 水域・底質中の鉛
- V. ヒトにおける曝露
 1. 吸入曝露
 2. 経口曝露
 - (1) 土壌・粉塵からの曝露
 - (2) 食品からの曝露
 - (3) 飲料水からの曝露
 - (4) 経口曝露量の推定
- VI. 体内動態
 1. 吸収
 2. 分布
 3. 代謝
 4. 排泄
 5. 生物学的半減期
- VII. ヒトにおける有害性評価
 1. 急性影響
 2. 慢性影響
 - (1) 神経系への影響
 - ①小児への影響
 - a. 神経行動学的発達への影響
 - b. 末梢神経機能への影響
 - ②成人への影響
 - a. 中枢神経機能への影響
 - b. 末梢神経機能への影響
 - (2) 心血管系への影響
 - (3) 血液・造血系への影響
 - (4) 腎臓への影響
 - (5) 内分泌系・免疫系への影響
 - (6) 生殖への影響
 - ①男性における生殖への影響
 - ②女性における生殖・発達への影響
 - (7) 発がん性

VIII. 実験動物等における有害影響

1. 発がん
2. 心理行動学的所見その他
3. 内分泌および生殖等への影響

IX. これまでの国際機関等での評価

1. IARC
2. JECFA
3. WHO 飲料水水質ガイドライン
4. 米国環境保護庁 (US EPA)
5. ACGIH

X. 食品健康影響評価

1. 有害性の確認
2. 用量-反応評価
 - (1) 疫学調査
 - (2) 耐容摂取量の設定
3. ハイリスクグループ

XI. 結論

XII. まとめ及び今後の課題